

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

2021年度が始まりました

2021年4月、21か国から集まった80人の共同生活が始まりました。コロナ前は120人を超える年も珍しくありませんでしたが、今は入国が厳しく制限されていて来日できない学生や家族も多く、いつもより静かな新年度の始まりとなりました。

昨年は断念した新入居者歓迎会を、今年はオンラインで開催しました。初めに、事務室の用意したカレーを有志の学生たちが手分けして各フロアに運び、受け取った学生は部屋で食べながら19時の開会を待ちました。歓迎会の冒頭、全員で自己紹介。その後、賞品付きの勝ち抜きクイズ大会を楽しみました。

「事務室で自転車を借りられるのは、1回4時間まで。○ですか？ ×ですか？」「ゴミを捨てる時は、燃えるゴミ、プラスチック、ペットボトルなどに分けなければいけない。○ですか？ ×ですか？」など、日常生活に役立つ情報が満載のクイズに答えながら、画面の中に笑顔が広がっていきました。

最後に、学生たちは廊下に出てフロアごとにグループ写真を撮りました。全員で集まれる日が来るのはまだ先のことになりそうですが、学生会館での生活を少しでも楽しんでもらえるようアイデアを出し合っています。

新入居者3人に ①学生会館の第1印象 ②学生会館に住んでいる間にやってみたいことを聞いてみました。

《アナさん(メキシコ)》

①事務室スタッフ、沖縄料理店をはじめ商店街の皆さんなど、地域全体で留学生を温かく迎えてくれていると感じます。

②地域のボランティア活動に参加したい。市民向けイベントや学校への出前授業などでメキシコを紹介したいです。



《グラッドネスさん(タンザニア)》

①知らない人が館内に入ってこられないシステムなので、安心して生活できます。スタッフもすごく親切。日本では物をなくしたことがありません。みんな正直で、安心できる社会です。

②他の留学生と話したり相談に乗ったりして、経験を共有したいです。



《 Bryantさん(モンゴル)》

①地域の方々と交流するチャンスがあるので、いろいろな経験ができそうです。多様な学生が住んでいるので新しい友人を作ろうと思います。

②モンゴルの文化を知ってほしいので、伝統楽器「馬頭琴」を地域の皆さんに紹介したいです。



*アナさんと Bryantさんは「聞きたい! 知りたい! 世界の今~留学生とのオンライン交流会~(7-9月)」に参加する予定です。詳細は4面をご覧ください。



シリーズ 母国の風景

結婚に欠かせない結納(ベトナム)

結納は花嫁の家で行われます。花嫁の家族からの贈り物は、キンマ(植物)の葉、ピンロウの実、ワイン、タバコ、お茶、ハスの種、ケーキ、フルーツなどです。すべて同量でなければならず、奇数の箱に収めて未婚の男性たちが運びます。それを受け取る花嫁側も、同じ人数の未婚の女性たちです。さらに結納金が奇数の封筒に入れられ、別の小さな箱に用意されます。このお金は、花嫁を産み育ててくれた家族に対して、花嫁の家族が敬意と感謝を表すものです。

花嫁の家族が贈り物を受け取り双方の了承が得られると、花嫁の母親は娘を花嫁の家族と親戚の前に連れてきます。そして、花嫁がお茶や水をついで花嫁の家族をもてなし、逆に花嫁は花嫁の家族をもてなす儀式が行われます。次に花嫁の母親がいくつかの贈り物を祭壇の上に並べます。そして花嫁の

先祖たちに結婚の報告をするため、花嫁と花婿が線香を炊きます。最後に供え物を花嫁の家族が分け合いますが、新郎新婦の幸せのために必要だと思う物だけは残しておきます。

結納はそれほど複雑ではありませんが、ベトナムの伝統的な婚礼には必要不可欠なものだと考えられています。それゆえ現代の新郎新婦もこのセレモニーの順序を守り、だからこそ彼らの結婚は完ぺきなまでにスムーズで幸せに満ちたものになるのです。(横浜国立大学 ファン ゲン ビン)



館長の「コミュニケーションコラム」

皆さんはじめまして、館長の村本義彦です。4月1日に平田前館長の後任としてまいりました。

横浜市職員として38年間、区民利用施設の管理、市内の公園や緑地の維持管理等に従事してきました。その間、職場として鶴見区に勤務することはありませんでしたが、学生時代に4年間アルバイトのため鶴見に通っていました。京急の鶴見駅は地上駅で、JR(当時は国鉄でした)の鶴見駅ビルも「つるみかみ」でした。工場の社員食堂で食事し、扇島には船で渡ったと記憶しています。着任の朝、鶴見駅に降り、鶴見駅入口交差点の地下道を通ると、当時の記憶がよみがえり懐かしさが込み上げました。

着任して間もなく、新入居者オリエンテーションとRA(レジデントアシスタント 留学生をサポートする学生)ミーティングに出席しました。遠く祖国を離れて学生会館で勉学に励む姿と、入居者間の親睦を積極的に



潮田交流プラザ前で新入居者と談笑

図る若者たちをととても頼もしく感じました。横浜・鶴見で過ごした時間がかけがえのないものになるよう、会館のスタッフ全員で施設的环境整備に努めるとともに、地域との交流を通じて、多文化共生のまちづくりを進めてまいります。

学生会館からのお知らせ 参加者募集!

申込みは<yish94@nifty.com>まで
詳細は学生会館HP<<http://yoke.or.jp/yish/>>をご覧ください。

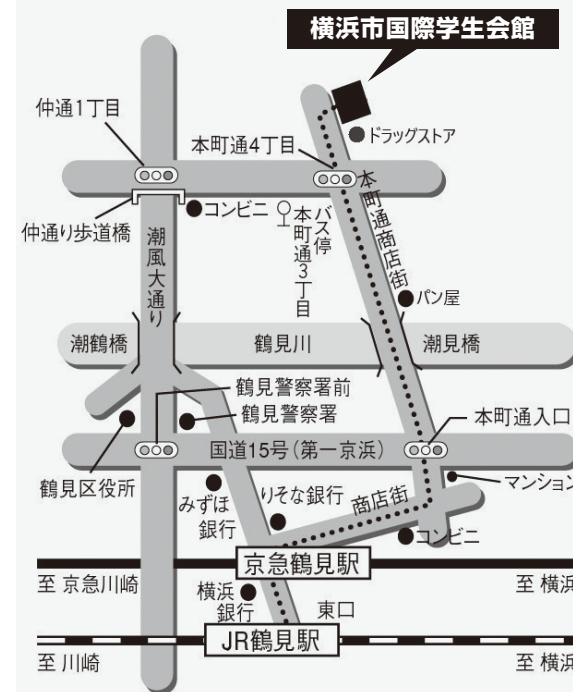
◆聞きたい! 知りたい! 世界の今~留学生とのオンライン交流会~ <7~9月>

東京2020大会の開催を記念し、5か国の留学生との交流会をZOOM(WEB会議ツール)で開催します。詳細は、国際学生会館ホームページをご覧ください。

日時 ● 7/10・24、8/7・21、9/4(全5回)。土曜日 11:00-12:15
定員 ● 30人
参加費 ● 2,000円(全5回)
申込み ● 6/11(金)~6/30(水) Eメール<yish94@nifty.com>で受付
参加する留学生の出身国 ● カメルーン、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、モンゴル(変更になる可能性もあります)
交流会の概要 ●
第1部: 留学生による発表「母国の紹介(母国の抱える社会問題等)」(20分)
第2部: 事前にメールで受け付けた質問にお答えします(20分)
第3部: その場で質問にお答えします(30分。通訳つき)
*一部の学生は英語で話しますが、画面に映す資料には日本語の説明を加えます。

◆オンライン プライベート会話サロン <開講中>

留学生と1対1で会話をお楽しみください。インドネシア語、英語、韓国朝鮮語、スペイン語、中国語、ネパール語、ベトナム語、モンゴル語などからお選びいただけます。開講日程等は、国際学生会館ホームページでご確認ください。



交通案内 JR京浜東北線・京急線「鶴見駅」より徒歩15分
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統(4番乗り場)に乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

開館時間 火曜日~土曜日 9:00~21:00
日曜日、月曜日、祝日 9:00~17:00
休館日 毎月第4曜日、年末年始

コロナ禍でもがんばっています！ ボランティアのみなさんの 活動の様子をご紹介します！



日本語レッスンを続けています

2020年9月にご紹介して以来、いつも仲の良い親子のようにレッスンをしている日本語チューターの鬼頭 和彦さんと、中国からの留学生、延 宇康さん（東京都市大学）。鬼頭さんにレッスンの様子などをお聞きしました。

【まずは本人のニーズを把握するところから】

最初に会った時、何を勉強したいのか、本人のニーズを把握するように努めました。「日常生活の向上と発音の矯正」が希望とのことでしたが、日本にすでに5年住んでいて、日本語を使ってアルバイトもしているの、意思疎通は十分できるレベルでした。「ネイティブ並みの日本語力を身に着きたい」とのこと、レッスン2～3回目「イントネーション」と特定の単語の発音を直すことが必要だ」ということが分かりました。例えば、「チョコレート」などの単語は上手に言えたので



コロナ禍の今は、距離を取ってレッスンをしています

と特定の単語の発音を直すことが必要だ」ということが分かりました。例えば、「チョコレート」などの単語は上手に言えたので

すが、「ぺっちゃんこ」「ちゃんちゃんこ」などの促音や撥音がまだできていないところがありました。そのあたりを重点的にみるようにしています。

【今後は、就職活動のサポート】

レッスンを始めてから数か月後、「病院に行きたい」と言うので、慣れていない日本の病院に同行して行きました。でも、医療用語など言葉の問題はまったくなく、もし私がお役に立てたとしたら、「緊急連絡先」になったことだけだったと思います。

これから延さんの就職活動が本格化します。現在は、エントリーシートの書き方や面接の受け方を練習しています。桜の季節には息抜きとして、三溪園にも一緒に桜を観に行きました。がんばって就職活動も乗り切っていって欲しいと思います。今後も、一緒に楽しくやっています。



三溪園で

チューター自主企画「三ツ池公園お花見ツアー」

桜開花の便りが聞こえてくるとソワソワしだすのは私だけでしょうか。できれば会館在住の皆様にも同じ気分を味わってもらおうと、チューター自主企画第2弾「三ツ池公園お花見ツアー」を3月25日に実施。バングラデシュ、ベトナムの留学生と二人のレジデントアシスタント、そしてもう一人のチューターさんを加えた6人で、鶴見駅西口より三ツ池公園にバスで向かい、北門より園内へ。あいにくの曇り空でしたが平日でもあり人混みも少なく、二時間園内を散策。染井吉野や大島桜といった白系の花びらやピンク系の横浜緋桜など満開の園内を歩きました。参加頂いた皆さんも桜の

木を背景に写真撮影をし、鶯の声を聴きながら満開の桜を楽しんでいました。

コロナ禍中であり、外でゆっくりする機会も失われがちですが、皆さんの日本での思い出の一ページに加わったとしたら企画冥利に尽きます。



文責 日本語チューター 市川了次

学生会館
事業担当より

コロナの影響で、ボランティアのみなさんと集まる機会をもてず、活動もかなり減ってしまいましたが、今年度はコロナ禍でもできることをやっていきたいと考えています。勉強会などのオンライン開催も考えていますので、「こんな内容でやってみたい」などのリクエストがございましたら、ぜひアイデア等お寄せください！ 学生会館メールアドレス yish94@nifty.com

留学生によるコラム かけはし

「感染拡大下における 日本での留学生活」

横浜国立大学
イレーン ソンダン
フィトリニシア(インドネシア)

COVID-19のために、私自身だけではなく世界中のほとんどの人々にとって2020年は非常に特別な年になっています。2019年にこのような状況を、私はもちろんのこと誰が想像したでしょう。私は不確実な状況に対処するために、新しい日常を受け入れるだけでなく幾通りかの代案を準備しなければなりません。

私の大学の講義はすべて、ユーチューブかズームミーティング又はマイクロソフトチームズを使ってオンラインで行われました。それは講義を伴う私の研究活動を監督する会議を含みます。結果として、すべての活動がインターネット環境の確かさや安定性に左右されます。私の住居のインターネットには問題がないので、大体は、オンラインミーティングに簡単に接続できるので嬉しいのです。最近では在宅でインターネットを利用して研究するのが楽しくなりました。

学業に関する問題とは別に、COVID-19の流行する中で留学生を送る上で課題となっていることのひとつが、家族です。現状を受け入れることができたとしても、一番辛いのは、いまだにインドネシアのジャカルタにいる夫と二人の子供たちと、長い間離ればなれでいなければならないことです。この7月には再会し、彼らを日本に呼び寄せて、子供たちを日本の学校に通わせるつもりでした。COVID-19が流行しているために、申請したビザがまだ発給されず、家族がまだ日本に入国で

きない現状に、辛抱強く耐えるしかありません。私は読書をしたり研究に没頭したり、そしてもちろんビデオ通話で家族と話しをすることで、不安や恋しさを断ち切るようにしていました。母親の直感ですが、子供たちは先の見えない不安定な状況下で学校へ行けなくなっていると分かりました。しかしながら私たち夫婦は、こんな状況だからと諦めてはいけなれないと思い、独自のカリキュラムと自宅学習用教材を作りました。私がスケジュールを立てて子供たちのために教材を作り、インターネットで送りました。それを夫がジャカルタで直接子供たちに教えるのです。時にはズームアプリを使って私が教えることもあります。幸いにして子供たちは両親から教えてもらうことを喜んでくれています。COVID-19がもたらしたもう一つのプラスの効果にも感謝しています。私たち家族は遠く離れていても絆はより一層強まり、近い将来、日本で再会できることを確信しています。

感染が広がり大変困難な状況に置かれていますが、私は横浜市国際学生会館に住めることに感謝しています。ひとりぼっちで生活していても、事務室スタッフがボランティアのみなさんからのたくさんのギフトを届けてくれて、その心遣いに心が温まり幸せな気持ちになります。まるで我が家にいるようです！

*「留学生レポート2020」(2020年10月 国際学生会館発行)より

イレーンさんの家族は2020年12月に来日することができました。今、長女のテレサさんは毎朝私たちスタッフに「行ってきます！」と元気にあいさつして、小学校に登校しています。



なるほど!あもしろい! 世界のことわざ ~バングラデシュ~



ইম্বর সুরভা
মানুষের একা নন

「神は人間のためだけにいるのではない」

「神は、あなただけの神ではない。神はイルカの願いや、海の祈りにも応えてきたらう。神は、森の祈りや山々の求めにも耳を傾けなければならないと思ってきました。自然さえも生き残るために努力し、夜な夜な叫び声をあげてきたのだ。そうでなければ、なぜ空は、今こんなに青いのか？なぜ小鳥たちがあんなにも賑やかにさえずっているのか？神はあなただけの神ではない、そして地球もまた、あなただけのものではない。」これは、バングラデシュに古くからある言い伝えです。バングラデシュの人々は、これまで自然を大切に生きてきまし

でした。木を切ったり、ゴミを至る所に捨てたり、自動車もたくさんの排気ガスを出してきました。多くの観光客はプラスチックを海に捨て、海洋生物を大事にしてきませんでした。しかし、今回のパンデミックで国がロックダウンされ、自然が戻ってきました。道に車はなく、観光地はクローズされました。空気はきれいになり、イルカたちが戻ってきました。森林もまたとても生き生きとしてきました。今回のパンデミックで、私たちはこの言い伝えの意味を再認識しました。(横浜国立大学 ハク ウンメ マハフザ)